

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

TKA 術後に膝窩部リハビリクッション導入後の移動の ADL について

[研究責任者]

看護部 10A 病棟 齋藤真里枝

[研究の背景]

クッションを用いた膝曲げ練習（屈曲可動域訓練）は、患者さま自身による自己リハビリテーションです。そのため自主的に取り組む患者さまばかりでなく、クッションを用いたリハビリテーションに対し意欲的でない患者さまもおられました。

クッションにより自己リハビリテーションを行った場合の膝関節屈曲可動域が増大することが先行研究により明らかにされたため、術後移動の ADL の変化について調査研究することでクッションによる自己リハビリテーションの必要性を示していきたいと考えました。

その結果を用い、患者さまにクッションを使用した自己リハビリテーションの重要性を説明し、患者さまご自身が意欲的に取り組む事ができるよう繋げていきたいと考え、本研究に取り組もうと思いました。

[研究の目的]

人工膝関節置換術（TKA）術後の自己リハビリテーションとして膝窩部リハビリクッションの使用群と非使用群を比較し、移動の ADL の変化を明らかにすること

[研究の方法]

●対象となる患者さま

2015 年 10 月 1 日～2019 年 10 月 30 日の間に 10A 病棟に入院した、人工膝関節置換術（TKA）を施行した患者さま

●研究期間：臨床研究審査委員会承認後、許可日から西暦 2024 年 7 月 31 日

●利用するカルテ情報

カルテ情報：屈曲角度・伸展角度、移動における ADL 状態について術前・離床日・術後 7 日目・退院日・退院後 3 か月の情報を取得します。

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者 武田亜希子が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター

責任者：看護部（10A 病棟） 看護師 齋藤真里枝

電話 086-294-9911